

海外便り

エチオピア通信 (6)

中山 実

1. はじめに

エチオピアでは、独自の暦を使用しているために9月12日に“Ethiopian New Year”を迎えました。西暦で9月11日がエチオピア暦の1月1日にあたります。

エチオピア暦では、1年は13ヵ月あり、30日からなる12ヵ月と、5~6日しかない1ヵ月から成り立っています。年も西暦とギャップがあり、2003年9月11日~2004年9月10日がエチオピア暦の1996年1月1日~12月31日にあたります。よってエチオピアでは、ようやく1996年になったということです。加えて、エチオピアの祝日は、エチオピア正教会やイスラム教の暦によって決められるものがあり、西暦のカレンダー上では、毎年日付けが変わるものがあります。また、エチオピアの時刻は、ケニア、タンザニアのスワヒリタイムと同様に6時を12時として数えます。つまり、午前7時はエチオピア人にとっては、朝1時となります。

赴任当初、エチオピア人に時刻を教える時は、非常にこんがらがった記憶が思い出されます。2年前の米国同時多発テロ時において、エチオピア人の犠牲者が一人も発生しなかった事は、9月11日に家で新年を迎えていたからだと言われています。

なぜ、今年に限り新年が9月12日なのかと申しますと、さすがに、西洋と違う暦を持っていたとしても、日本と言う“うるう年”が4年に1回やってきます。今年はそのおかげで、9月12日が新年となりました。

この新年を迎えるとすぐに、突風が吹き荒れて、雨季の終わりを告げます。エチオピアの至るところで、“マスカル”という黄色い花が咲き乱れて(写真-1)、9月下旬のマスカル祭が行われます。

乾季の到来です。



写真-1 マスカルの花で黄色くなった山

2. エチオピアの現状と訓練生のレベル

今年の4月から訓練コースを開講していますが、なかなかプロジェクトドキュメントに書かれた内容(現場施工監督者の養成)にまで到達せずに困っている毎日です。

なぜ、困っているのかと申しますと、現場施工監督という仕事の内容を理解できる訓練生が集まらないために、例えるなら、小学生に微分・積分を教えるような感じになっているからです。集まらないのなら、理解の出来る訓練生を集めれば良いのではと思われる方が多いと思いますが、訓練生の主な職種は“Construction Foreman”と言いまして、現場監督を仕事としている方たちです。「じゃあ、集まっているのではないか!」と思われると思いますが、彼らのレベルは、日本で想像出来るようなレベルではありません。

毎回、コース終了後、訓練コースを見直して作り直して行くために、訓練生に質問表を配ってそれらを分析しています。今回は、その分析中に発見した出来事です。

以下のような引き算が行われているのを発見しました。

$$\begin{array}{r} 1958 \\ -1995 \\ \hline 3 \end{array}$$

この引き算を導いた質問は、訓練生の年齢を尋ねていました。この出来事を解説しますと、その訓練生は1958年生まれで現在1995年なので(エチオピア暦)、自分の年齢が37歳なのはわかっているのですが、引き算の仕方がわからないのです。だから、なぜ1の位に“3”が出て来るのかもわからないようでした。なぜなら、筆跡を見ていると、なかなか引けないので、かなり苦戦している事がわかったからです。

訓練生の現在の職種を見てもそうです。現在は、訓練生

のレベルに合わせて、土木一般コースを開講していますが、地方事務所の門番やタイムキーパー等々がやって来ています。先ほど申しましたように“Construction Foreman”を集めているにも関わらず、彼らが受講しに来ています(写真-2)。

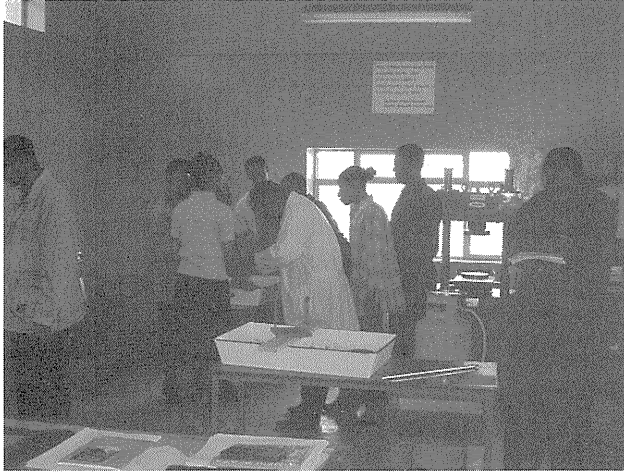


写真-2 材料試験の授業の一コマ

しかし、これが深刻なエチオピアの現実を映しているのです。彼らは、地方の市役所等に勤務する土木に携わる技術者達として、本センターで知識を身につけて、自分の所属に戻って、地元の現場で先頭(指導者)に立つ技術者達なのです。あまりにも仕事がないために、“Construction Foreman”として就職したのですが、門番等の仕事をす

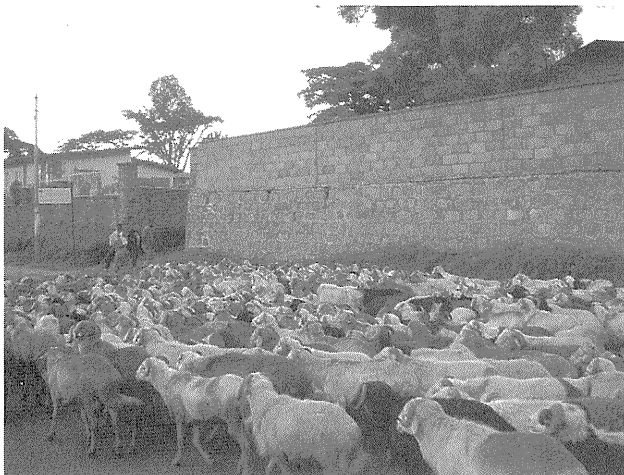


写真-3 車窓から(アジスアベバ)

るしかなかったのです。

私の本来の任務の内容ならば、大卒程度を対象とするべきなのですが、地方から長時間をかけて訓練コースを受けに来ているのに加えて、彼らに「俺が知識を学んで、帰って指導しなければいけないんだ」と言われると、「君は対象じゃないから、無理だから」と言って、簡単に帰す訳には行きません。

ほとんどの訓練生が、真剣に訓練を受けているので、何とか知識を身につけて帰って欲しいのですが、引き算が出来ないレベルとなると正直苦しい戦いです。

3. アジスアベバ猛虎会

阪神タイガースが18年振りに優勝しました。情報によると、大阪はかなりの盛り上がりがあるように感じます。前回の優勝は私が小学6年生でしたが、神宮での優勝は今でも目に焼き付いています。勿論、日本シリーズで長崎選手が放った満塁ホームランは忘れる事が出来ません。そういうことなので、阪神ファンの私としては、これまで本当に長かった道のりでした。ただ、仕事とはいえ、不覚にも18年振りの優勝時にエチオピアにいる事を非常に歯がゆく感じています。

さて、阪神タイガース優勝により、世界各地で阪神タイガースファンの活動が報道されているようでしたが、アジスアベバにも猛虎会があると言う事をお知らせしたく簡単に書かせて頂きます。

会の名称は、そのままですが「アジスアベバ猛虎会」です。本会は、2003年6月19日にエチオピア在住の阪神ファンによって結成されました。エチオピアでの日本人の数が少ないために、会員もかなり少ないのですが、「魂は常に甲子園にあり」という気持ちの方々です。

活動としては、毎回「六甲嵐」を歌う事ぐらいしかありませんが、先日の会合において、ジェット風船を全員でアジスアベバの夜空に向かって飛ばしました。これから何とか会員(阪神ファンの拡大)を行って行くつもりですが、なかなかエチオピア在住日本人が増えないので増えません。

阪神ファンの方でエチオピアに在住予定の方がおられましたら、是非、会に参加して頂きたく思います。

—なかやま みる JICA 派遣専門家, 国土交通省近畿地方整備局—